

部活動の外部委託について ～現状と今後の問題点、岡山大の取り組み～

岡山大学教育推進機構（スポーツ支援室）特任教授・助教

鈴木 久雄・榎本 翔太

岡山大学スポーツ支援室の鈴木と申します。ただ今、南川先生に話していただいた内容が最後のまとめのようなことですが、私の話は堀口先生の話とは違って、雑駁な話ですので、適当に聞いていただければと思います。私は岡山大学教員ですが、天満屋女子陸上部の選手をずっと見せていただいております、今年10月15日に5人が最終選考会に出場し、この中から一人はオリンピックに行くと思いますので、皆様、10月15日はテレビの前で天満屋選手を応援していただければと思います。よろしくお願いします。

まず、今日の話に入る前に、誰しもお存知だとは思いますが、日本の人口は2010年ぐらいから低下傾向にあります。同様に中学校の体育連盟の加入数が、スポーツ庁から発表されていまして、部員数が徐々に減っていく傾向にあります。スポーツ種目によって、急激に低下している種目とそれ程でもないような種目があります。2018年からは推定値なのですが、野球部員は減少傾向が大きく、今後、一つの中学で1チーム作るのは相当難しくなる時代だろうと思います。サッカーも同様です。南川先生が関係している陸上競技はずっと横ばい傾向ですが、全体としては少なくなっていく方向であることに間違いありません。今後、人口減少とともにスポーツのやり方、部活のやり方も相当変わっていくだろうと思われれます。

1. 指導者人材確保

今日の話「部活動の外部委託」で一番の問題は、指導者の人材確保と言われていますが、この対策については色々と提案されています。文科省は2016年にスポーツに関わる人材の例を挙げ、人材は沢山いると言っています。地域のクラブや部活等で指導者も含めてスポーツに取り組む人、トップレベルのアスリート、指導者、或いは医科学の専門スタッフ、審判員、ボランティア、観戦している人、応援サポーター、チームの経営を担っている人材等を挙げて、さも指導できる人、関われる人が沢山いるというものです。例えば、報道関係者もその人材の一人に挙がっていますが、定期的に夕方、部活指導をおこなうというのは考えられるでしょうか。先日2023年6月6日に出ていたネットニュースに、「クラブから指導者を出せない現状も浮き彫りに」ということで、これは各競技団体やスポーツクラブ等から80名が参加して、色々な意見交換をしたというもので、岡山県の主催でした。この中の意見では、スポーツクラブも人材が不足していると言います。不足しているという発言の中に、仕事にプラスして、部活動を請け負うとなるとスタッフの疲労も考慮しなければならない。要するに、仕事をしながら指導をするのは無理です、というわけです。先ほど、挙がっていたような色々な人材がいるというのも、実際にその人達に依頼して、出来る人達がどれくらいいるのかという話になります。もう一つ、スポーツクラブというのは、ご存知ない方もご存知の方もいらっしゃると思いますが、現

在、総合型地域スポーツクラブというのがありまして、全国でおよそ3,500～3,600あります。ここには指導者が数名から、10名、20名もいるクラブもあります。例えば、スポーツ庁は、前長官が視察に行っていて、このようなクラブが増えることを期待しています、というようなことを言って期待値を高めます。このようなクラブは確かに成功しているのですが、成功している理由は、コーチ等の有資格者がボランティアで参加して、施設の指定管理を請け負える非常に大きな組織を持っています。しかも資金源も人材もあるクラブで、そこに来てくれさえすれば指導するシステムができています。総合型地域スポーツクラブなので、このようなクラブは非常に稀です。我々が主催している総合型地域スポーツクラブ：桃太郎夢クラブと言いましてランニングクラブがあります。ランニングを中心にキッズから高齢者、障がい者等が集まるクラブです。指導者は天満屋女子陸上競技部スタッフと岡山大学をはじめとする近隣の大学の陸上部の人たちがここに来てくれています。これは比較的上手くいっている方なのですが、うまく実施できているとは言ってもコロナによって多大なダメージを受けています。練習会が月2回から4回実施されていたのですが、現在月2回とし、一ヶ月の会費を2,000円から5,000円にしました。通常、総合型地域スポーツクラブの会費は数百円ですが、我々のクラブは非常に高い設定です。はっきりとは言われませんが、他の総合型地域スポーツクラブの人から「おまえのクラブは金儲けクラブか」と言われているようです。何故、高くしているのかというとスタジアムを使っているので2時間ほど使うと8万円ほどかかります。これが非常にネックになっていまして、要するに場所を借りるのに高額な金額がかかるというわけです。もう一つは指導者の謝金です。天満屋女子陸上部監督コーチが直接指導するということや、そのブランド力があるために高くしても集まるという自負もあります。天満屋陸上部スタッフは無報酬で指導し、学生には指導謝金料を払っています。謝金を払っているといっても、2時間で1,800円という金額ですので、これを学生はどのように見るかというと、指導前後のことを考えるとそれではアルバイトにはならないということで、指導参加を断る学生は少なくありません。そのため、陸上部の先輩後輩を通じて指導者集めも学生指導者の役割となっています。というわけで、簡単に人集めというのは出来ないというのが現状です。最近、内閣府はこの部活動の指導員を確保するためには、大学生を挙げています。他には地元企業と連携するとか、人材バンクを活かしてスポーツ競技団体の方から派遣すると言っているのですが、大学生に運動部指導が可能かについて想像できる範囲でお話しさせていただきます。

2. 中学校部活動の実態

中学校の部活の実態について少しお話しさせていただきます。2021年5月にスポーツ庁・文科省より、中学校の部活指導に関する要項が出ていまして、学校教育の一環として教育課程との関連は図られるよう留意することとしています（図1）。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力を得る、或いは、持続可能な運営体制が整えられるというようなことも一応示しているのですが、なかなか上手くはいっていません。それらの問題を解決するための一つの方法として外部指導者の活用というところを強力的に推し進めようとしています。これまで外部指導者はいたのですが、部活顧問教員と外部指導者は協力してコーチ、指導するということであったのですが、生徒に対して部活指導員のレベルが高ければ高いほど、生徒は指導員の言うことを聞くようになってしまい、顧問教員の言うことはあてにならないとまで言ってくる子供が増えるなど、全てが成功している訳ではありません。

んでした。

このやり方は色々な問題があるにしても、図1¹⁾のケース1は、外部指導員を顧問と全く同じような形にして指導してもらおうとする方法です。ケース2は教員と外部指導員と一緒に生徒を指導したり、引率したりというのが出来るようにする方法です。従前のやり方は外部指導員は技術指導をすることが中心であって、引率というのは出来なかったのですが、出来るようになりました。以上のように少し制度を変え、大学生も使いたいというわけです。部活動指導員の職務は実技指導、安全・傷害予防に関する知識・技能の指導、引率、事故対応等をするということです。先ほどの堀口先生の話にもありましたが、中学校の教員の一週間当たりの仕事時間は OECD の平均の仕事時間より非常に多いことが分かるかと思います（図2²⁾）。矢印の部分が、労働時間が三ヵ国中で一番多い項目です。仕事時間が長い、課外活動、部活動の指導時間が長い、事務処理量も多い、授業の準備が足りないことが現状です。

この中で、仕事時間もそうですが、それプラス課外活動（部活動）に関わる時間が多いことが問題です。曜日別では、女子も男子も圧倒的に土日が多い状況です。要するに平日だけでは足りないと言っています。休日を一週間に何回設けているかと聞くと、一週間に一回は休みますというところが半分近くで（図3³⁾）、設けていないというところもあります。20% 強が毎日部活動をやっているというわけです。毎日部活動をしているというところは、朝練と夕練と2回やっている可能性もあります。土日の休養日を設定している学校の割合も、設けていない学校もかなりあることがわかったと思います。

これに関しては、今日の話とは関係ないのですが、修行や稽古という言葉がありますが、これらには時間をかけることが重要とする意味が含まれています。やればやるほど上手くなる強くなるという

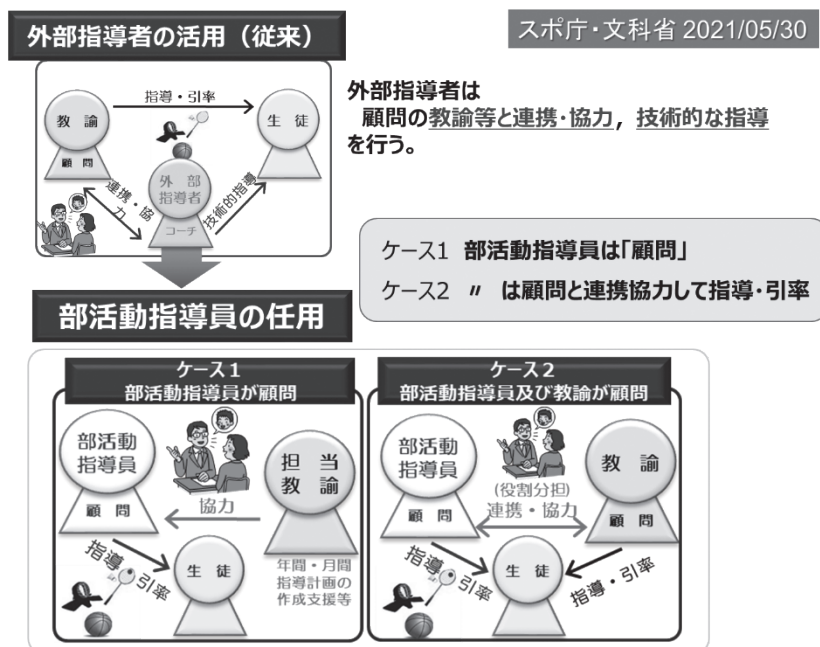


図1. 外部指導者の活用（ケース1、ケース2）について（スポーツ庁、2021）¹⁾

発想が日本人の根底にあるのではないのでしょうか。いやそんなことはないと言っても、練習量を少なくするのは勇気が要ります。子どもの身体は、例えば、骨を見ると身長が伸びる時期は、骨が間違はなく弱い時期です。弱い骨の時期に、激しい運動を長時間やると傷害リスクが高まるというのは間違いありません。それ以上に練習は嘘をつかないとか、或いは練習時間を短くしたら絶対弱くなるというような脅し文句を言う人たちが非常に多く存在します。一流選手は質の高い練習をするために、リカバリーを大切にします。つまり、身体を回復させてさらに激しい練習をする、ということを心掛けています。練習量のコントロールをすごく重要視しますが、実際の中学校ではかなり怪しいというわけです。

OECD 国際教員指導環境調査 2018

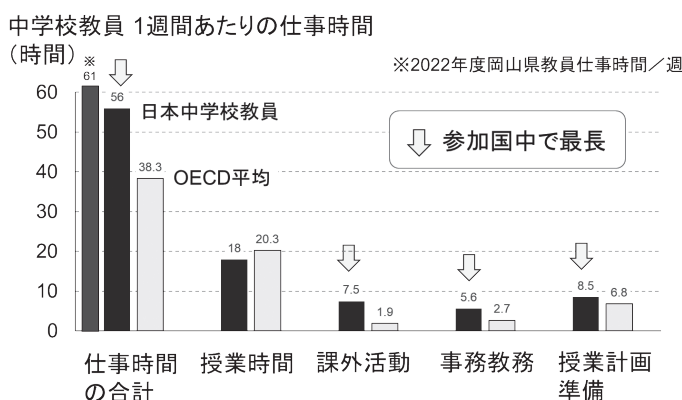


図2. 国際教員指導環境調査 (OECD、2018)²⁾

部活動の休養日の設定

スポーツ庁 2017/05

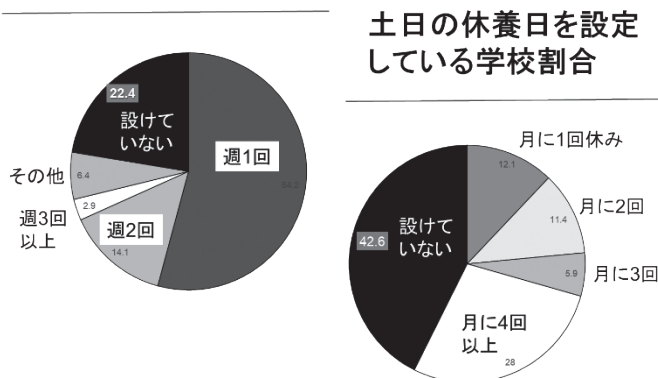


図3. 部活動の休養日数 (スポーツ庁、2017)³⁾

3. 部活動顧問の資格取得研修と外部指導者

次に部活動の顧問の配置状況というのが、スポーツ庁から報告されています。88%が「全員が当たることを原則としている」と答えています。今まで経験があろうがなかろうが、ほとんどの教員が部活顧問をしています。「希望する教員が当たることを原則としている」という場合もありますが、圧倒的に「全員が当たる」が多いというわけです。顧問教員として引き受けざるを得ないという状況が、業務の負担増となり、ほとんどの教員が本当はやりたけれども出来ない、或いは、それをやったがために授業に影響すると答えています。また、指導方法が分からない、経験があろうがなかろうがやれと言うわけですから、国語の先生に体育を教えろと言って、ハイと手を上げるわけがないけれども、やらざるを得ない状況が続いているというわけです。それであれば、指導法を勉強して、部活指導もすればいいのではないかという人がいます。資格を持っていない人に「資格を取得するか」を聞くと、取得したいという教員23.6%、取得したくないという教員76.4%（スポーツ庁、2017）です。要するに、そんな時間はないというわけです。

何故、このようになるのかというと、公認スポーツ指導者認定者数は2022年10月現在、648,000人います。このような有資格者を使えばいいと言われてもなかなか出来ないのはこれまでに説明した通りです。また、資格を取るには例えば、日本スポーツクラブ協会では学校運動部活動指導士講習会カリキュラム（図4⁴⁾）として、一コマあたり2時間程度の講習を全て受ける必要があります。この資格を取得しましょうといわれても、よいことは分かっているけど結果は難しいとなります。

私の授業（岡山大学学生が対象）で、中学校の部活動を外部指導者をお願いするのはどう思うかと聞くと、多くの学生が「不安がある」と答えます。十分な知識のない者が子どもを指導するのは心配というものです。外部指導員より教員はしっかりしており、十分な知識がない指導者に指導されるのは不安だというわけです。それに対して、私が、例えば、これまでの部活動で問題行為を起こしたのは、ほとんどが教員であって、教員が全員素晴らしい指導者とはいえないといっても、それでも教員がした方がいいと答えます。これが現実です。

公益財団法人 日本スポーツ クラブ協会	(総合型)地域スポーツクラブと運動部活動(事例発表)
	チームビルディング:個性を育むチームづくりとリーダーシップ
学校運動部 活動指導士 講習会 カリキュラム	生活を豊かにする部活動指導の倫理・理念と指導者の役割行動
	コーチングの心理学(モチベーション)
	中学生年代の体カトレーニング法
	学校運動部活動の歴史と将来
	中学生年代に必要なスポーツ栄養学
	運動学習理論
	学校と運動部活動
	スポーツ指導法(初心者・初級者指導のコツ)
	スポーツの社会化
	部活動指導員の職務と部活動の組織運営
	安全確保と成長期におけるケガ等の救急処置
	コーディネーショントレーニングの理論と実践
	部活動と組織運営とステークホルダーマネジメント
	部活動改革と地域スポーツ(地域スポーツNOW!)
	中学生年代における性差とスポーツ指導法
	カウンセリングマインド/アンガーマネジメント
	学校スポーツ施設・設備・用具の安全管理

図4. 日本スポーツ協会学校運動部活動指導士講習会カリキュラム例⁴⁾

部活指導の有効性の調査⁵⁾を大阪体育大学がしてしまして、3年前のデータなのですが、全国の教育委員会にたずねています。外部指導者が部活指導に入るとことはとても有効と考えているが64.1%、やや課題がある25.8%、どちらともいえない8.1%、とても課題がある1%でした。100人の中に1人でもひどい指導をする人がいると、外部指導者はだめだという話になりかねないデータです。子ども相手なので、1%の外部指導者でも事件事故が起きてしまうと、外部指導者の話が一瞬にして吹っ飛んでしまうこともあるので、ここは非常に重要視しなくてはならない問題です。

そこで、スポーツ庁は外部指導者に対しての研修内容(案)を作ってしまして、先程もありましたように、研修内容としては、部活指導者概要から始まり、学修指導要領や活動の意義や、服務、或いは生徒の発育発達等々、色々なことを学んでもらうことになっています。教員は時間がないので講習会を受けろと言われても、なかなか受けることができないにも拘わらず、外部指導者には受けろというわけです。これで指導者確保が、また一つハードルが上がってしまうのではないのでしょうか。

これまでのところをまとめますと、部活動指導者の活用のメリットは顧問教員の負担を軽減して、或いは技術指導をしてくれるということですからメリットはあるだろうとなりますが、人材確保が一番の問題といえます。人材確保をするためには予算を付けないといけないのですが、それがまた難しいとなります。顧問教員と外部指導者との連携は相手によりますが、口で言うほど簡単ではないと思います。

4. 岡山市モデル事業：大学生の部活指導

今年度から、学生が部活動指導に行くという岡山市のモデル事業が始まっています。岡山大学は岡山市と申し合わせを行い、大学生の部活動指導に協力することになりました。今年度は土日、祝日、長期休暇(夏休み等)のみの部活指導です。1時間当たり1,200円で、年20回までの予算が組まれています。学生の部活指導とはいえ、顧問教員の元で指導補助をおこなう建前であり、事故が発生した時は岡山市の責任で対処してもらいます。今年度の事業は岡山大学と環太平洋大学の2校のみです。

岡山大学学生は近隣の2中学校での部活指導で、1中学校で必要な募集人数は20名~40名です。6月中旬に岡山市スポーツ振興課による説明会兼研修会があり、その後、学生が中学校へ行って、顧問教員と打合せをして部活動指導を開始する予定です。一週間に1回程度の指導ですので、子ども達に本格的な指導ができるようになるのは、これからが本番かなというところでは。

一方、話が変わりますが、中国五大学選手権大会という国立大学だけで行っているスポーツの大会がありまして、陸上競技が今年度から中止するという事になっています。中止の理由は、毎年違う県の大学が担当して開催するのですが、その時に外部役員を100名ぐらい依頼しないと大会が開催できません。前日の会場の設営や施設借用料や人件費がある上に、陸上競技部部員が減少しているのでもやめることになりました。注目していただきたいのは、陸上競技の大会は審判員が100名ぐらい必要で、そのほとんどが教員です。外部指導者が生徒を引率した場合、大会役員・審判員でもある教員がいなくなるということですので、大会は開催できません。つまり、スポーツ大会そのものの仕組みも変えないといけないと思います。

大学生の部活動指導の問題として、部活の人材確保は順調に進んでいますが、簡単ではありません。大学生も部活動の試合や大会が土日にあるので重なってしまうことが多々みられます。この場合、同

好会・サークルに募集を広げることになりますが、練習場所や練習時間が確保されていないので、募集や交渉が難しいのも確かです。部活指導者確保はできるだけ範囲を広げる必要がありますが、募集をかけるだけでは集まらないので個別交渉が必要となります。それには担当者をつくるなど、指導人材確保のための人材が必要といえます。

学生指導者が中学校に行った場合、教員の負担軽減になるかは疑問があります。今後の課題ですけれども、学生指導者が指導に慣れてくるまで、余計に負担が増すかもしれないという心配があります。予算が年間20回という形で、回数が多くなく、しかも拘束時間が長いということになって、バイトへ行った方がいいと思う学生はいます。金額をもう少し上げざるを得ないのではないかと考えます。また、学校や顧問との連携が重要になってきますが、学生指導者の指導上の問題で一番怖いのは個人情報流出です。これまでの外部指導者での問題に何度か報告されてきましたが、これが一度でも一人でも起きると、部活指導が中断しかねない問題となります。これから岡山市と一緒に岡山大学も1つずつ課題を解決していき、大学生の部活動指導を成功させていきたいと思っています。

教員の負担軽減に繋がるかは、この部活指導を職業として成り立つような仕組み、プロの指導者を作らないと解決しないだろうと思っています。もう一つは自治体の補助・保護者の負担をお願いしないと、このままでは中途半端過ぎてお金はない、人はいない、潰れましたということになりかねないと思っています。

5. 大学生の部活指導に対する調査

研究会開催後、大学生の部活指導について、岡山市スポーツ振興課が部活指導学生（53名）、顧問教員（31名）、指導を受けた中学生（193名）、その保護者（216名）にアンケート調査をおこなっています。岡山市から許可を得ていますので、紹介させていただきます。

部活指導学生の回答は「やりがいを感じる、どちらかといえば感じる」96%、「指導経験が将来役立つと感じる、どちらかといえば感じる」100%、「うまく技術を教えられないと感じる」42%、「顧問教育との意思疎通が難しい」25%でした。概ね学生の意欲は高いようですが、指導の難しさも感じているようです。顧問教員の回答は、「学生指導者の指導に中学生は満足している、どちらかといえば満足」61%、「学生指導者に部員（中学生）の指導を安心して任せられる、どちらかといえば任せられる」39%、「顧問教員の負担軽減につながっていると感じる、どちらかといえば感じる」61%でした。顧問教員は学生指導者の経験不足から安心して任せるのは難しいが、負担軽減を感じていることは大きな成果と思われます。指導を受けた中学生の回答は、「指導してくれることに「楽しさ」や「嬉しさ」を感じる、どちらかといえば感じる」8%、学生指導者にとって厳しい指摘となりました。指導経験不足、コミュニケーション不足が出た感じですが。保護者の回答は「学生指導者の指導に満足、どちらかといえば満足」36%とそれほど満足はしていないようですが、部活のことですので「分からない」も25%いますので、保護者の満足を得るには時間がかかると思われました。

今回のアンケート調査は2023年10月におこないましたが、部活指導学生はまだ数回しか指導に行けていない者も含まれています。年度末にも同じ調査をおこなうことから、学生の指導経験が積まれることで、課題解決能力、コミュニケーション能力の向上によって、顧問教員の信頼を得られるようになり、中学生、保護者の満足度も高まるのではないかと期待しています。そのようになれば、数年後

には顧問教員の負担軽減に繋がるのではないかと考えています。まだまだ課題が多い取り組みですが、まずは第一歩が刻まれたと思います。

引用文献

- 1) スポーツ庁・文部科学省（2021）部活動指導員について。
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/1405720_00010.htm
- 2) 国立教育政策研究所編（2020）教員環境の国際比較：OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）2018報告書〔第2巻〕— 専門職としての教員と校長 —，明石書店。
- 3) 文部科学省（2017）運動部活動の現状
https://www.mext.go.jp/.../2017/08/17/1386194_02.pdf
- 4) 第3回学校運動部活動指導士養成（資格認定）講習会開催要項（2023）
https://jsca21.or.jp/wp-content/uploads/2023/01/3rd-athletic_culb.pdf
- 5) 大阪体育大学(2020)「部活動指導員」導入・実施等に関するアンケート調査結果の分析(その1)。
https://www.ouhs.jp/ouhs-athletics/sportsclubactivityreformplan/wp-content/uploads/sites/24/2020/03/4_summary.pdf